

人吉高校定時制図書室だより

6 JUNE

人吉高等学校定時制
令和5年6月29日(木)
担当 吉元

爽やかで快適な時期は思った以上に短く、早くも日差しの強さや湿気を感じるようになりました。各地で頻発する地震や、予想される風雨の被害にも日頃からの備えが必要です。天候の影響で、室内で過ごす時間が増えるかと思えます。定通体育大会、前期中間考査が終わりました。一段落し、心の余裕のできた時間に図書室の本を借りて読んでみてはいかがでしょうか。

6月の二十四節気は、6月5日頃の「芒種(ぼうしゅ)」（稲を植えるとき）と、6月21日頃の「夏至(げし)」（昼が最も長い日）があります。5月の後半から感じていた日の出ている時間の長さは、意外にも6月にピークを迎えます。日本では農作業が最も忙しい時期で、夏や秋に美味しいものを頂けるのは農家さんのおかげだと実感できますね。



さて、図書室で定期購入している「どうぎゃん」。続々と届いています。人吉球磨地方に特化し、“ど・ローカル”にこだわった月刊情報誌です。「Z世代」のコーナーは、若い世代の視点かつ、地元の人ならではのグルメや旬の情報の企画は見ているだけでも楽しめますね。



皆さんは「スイミー」の話は知っていますか？

レオ=レオニの作で谷川俊太郎の訳が有名な物語で、小学校で習った人もいるかと思えます。先日、絵本と教科書でことばの違いがあることを見つけた人がいました。「さかなの きょうだいたちが たのしく くらしていた」の文が、教科書では「さかなの きょうだいたちが たのしく くらしていた」になっているそうです。他にも「おなか すかせて」が「おなかを すかせて」になっています。文法的には後者の方が正しいですが、前者は語感も良く、原作の雰囲気壊さない表現で魅力があります。皆さんはどう感じますか？

成長してから絵本を読み返してみると、子供の頃には感じなかった新しい視点があるかもしれません。

